

穂高

豊科



安曇野市公民館報

安曇野市
中央公民館
No.52 2020.1.8
TEL71-2466

堀金



令和元年度 安曇野市文化祭

三郷

明科



10月から12月にかけて、各地域で文化祭が行われました。各地域文化祭の展示作品の中から選ばれた作品が、3月に豊科交流学習センター「きぼう」で開催される「安曇野市総合芸術展」で展示されます。

豊科

豊科地域文化祭が10月31日から11月17日まで2会場で開催された。

豊科交流学習センター「きぼう」で10月31日から11月4日まで開催された「菊花展」には、丹精こめて育てた菊花が数多く出展された。好天に恵まれ回廊中庭の菊がひとときわきれいであった。出展するまでに長い時間と手間をかけた苦労が報われた瞬間である。



11月2日から4日は「書道展」「華道展」「フラワーアレンジメント展」が開催され、大勢の来場者があった。今年には3つの展示が「きぼう」会場で同時に開催となったため、昨年とは趣が異なり、書と花が見事にマッチングして新鮮な感じを受けた。



2日と3日は2階のロビーで茶会も行われ、来場者にお茶が振る舞われた。豊科公民館大ホールでは、11月3日に「芸能発表会」が行わ

れた。あづみの太鼓保存会の演奏を皮切りに22団体の発表が続いた。豊科北中学校の「よさこい」は、踊り手の人数も多く迫力があった。どのグループでも、年々高齢化が進み次世代にどのよう継承していくかが課題であるが、次世代を担う小・中・高校生の出演は毎年楽しみであり頼もしく感じる。



美術・一般作品展は11月8日から10日まで行われた。公民館の入口には懸崖菊など各種の菊が飾られ、入口いっぱい香り漂い、精力的な作品が多く見ごたえがある文化祭を盛り上げた。

11月16日には短歌大会、17日には俳句大会が行われた。両大会は他地域にないものであり、特に俳句大会のジュニアの部は、年々投句数が増え、今年は2000句を越えた。

昨年は3会場で開催したが、1会場減らして2会場で開催としたことで、来場者の利便が図られ来場者数が昨年より増えたようだ。

三郷

三郷地域文化祭「三郷祭」が、台風19号のため日程を変更して10月19日から12月8日まで開催された。

10月19日、三郷中学校講堂で「ふれあいコンサート」が行われ「安曇野市歌」をみんなで歌いスタートした。三郷小学校吹奏楽部・合唱部・PTAの演奏にはじまり、長年活動が続いているコーラスグループの美しい歌声が響いた。また尺八・マリンバ・ミュージックベル・コカリナ・フルートなど多様な楽器の音色を楽しんだ。1・2年生の新体制で初めてのステージとなった三郷中学校合唱部・吹奏楽部の演出で会場は盛り上がり、最後は全員で「信濃の国」を歌った。昨年



から参加しているフルート4重奏の「潤沢アンサンブル」代表の馬場範子さんは「みなさんしっかり注目して聴いてくれるので、緊張はしけれど楽しく演奏できました」と笑顔で語った。10月29日か

ら11月2日までは、三郷公民館ロビーで「菊花展」が開催され、小菊盆栽会のかわいらしい盆栽づくりを中心に、大小の菊花が訪れる人の目を楽しませた。

11月2日には三郷公民館講堂で「芸能発表会」が行われ、日頃の練習の成果を18団体が披露した。市の無形文化財に指定されている上長尾の獅子舞を保存会が会場を練り歩き、真の演技を披露した。



会議室では三郷小学校の茶道クラブによるお点前が行われ、お抹茶を頂くのが初めてという小さい子どもたちも「ちょっと苦いけどおいしい」と味わっていた。

12月7日・8日に日程を変更した「文化産業展」は、会場を三郷公民館に移しての開催となった。初めて出展する団体も含めて700点を超える出展があり、会場は盛り上がった。

穂高

穂高文化祭は10月18日から11月10日まで、2会場で開催された。

穂高会場では、11月2日から4日まで「総合美術展」「高齢者作品展」「カラオケ発表会」「芸能まつり」が開催された。

「総合美術展」は、穂高総合体育館アリーナに拾ヶ堰紹介・彫刻・生け花・絵画・書道・押し花・写真や穂高地域の小・中・高校生の美術作品など、様々な作品が展示され、会場を埋め尽くしていた。安曇野のビデオ放映コーナーやお茶をサーブする茶席もあった。



「高齢者作品展」では、会場役員がぜひこれを見てくださうと、すべて爪楊枝で作ったという力作の「礫山美術館」を紹介してくれた。

2日に「カラオケ発表会」、3日に「芸能まつり第一部」、4日に「芸能まつり第二部」を開催した。「カラオケ発表会」には41人が出演し自慢の喉を披露していた。

「芸能まつり第一部」では、詩吟・歌謡吟詠・フラダンス・日本舞踊・ダンス・民謡など38団体が出演し、様々な演目で観衆を堪能させてくれた。一青窈さんのハナミズキを



ハワイのシンガーがハワイ語の歌詞でカバーしたという曲のフラダンスも披露された。

「芸能まつり第二部」は、合唱・フルートアンサンブル・ジャズ演奏・三味線・和太鼓・金管演奏・吹奏楽など、14団体による素晴らしい音楽会であった。孫の

演奏を聴きに家族で来場したという方が「穂高西小学校と穂高南小学校が参加予定だった東海小学生バンドフェスティバルが台風19号の影響で中止になったため、文化祭での演奏を張り切っている」と教えてくれた。



連日盛況だったが、特に第二部の後半になると、我が子や孫の演奏を見に来た方々など300人以上が会場を埋め尽くし大盛況であった。

穂高神社会場では、10月18日から20日まで「盆栽・山野草展」、10月27日から11月10日まで「あづみ野菊花品評会」と「穂高人形・御船祭展」が開催された。

堀金

堀金地域文化祭は10月25日から27日まで「文化展」、26日に「堀金芸能祭」、11月3日に「堀金一周駅伝大会」を行った。

文化展

「文化展」には、華道・書道・絵画・写真やフラワールアレンジメント・郷土史研究・短歌・俳句等が出品された。堀金認定こども園児の工



作や小学生の絵画・書道・工芸作品、中学生の木工やキルト作品等の授業での力作が展示されていた。堀金公民館の菊づくり講座の作品や、地区公民館の女性部が主体となった講習会の作品であるハーバリウムやフラワールアレンジメント・押し花等の作品が来場者の目をひいていた。

堀金芸能祭

「堀金芸能祭」は、合唱・詩吟・舞踊・楽器演奏・紙芝居・ペープサート劇・ダンス等の22演目の発表があった。堀金小学校合唱部は「もみじ」



「ふるさと」「未来へ」を歌い課外活動の成果を披露した。堀金常念太鼓の威勢のいい演奏や、ひまわりキッズ・ひまわりジュニアのかわいいダンスも披露された。

堀金一周駅伝大会

「堀金一周駅伝大会」は地区公民館対抗競技で、堀金地域全9地区を中継する。堀金支所を発着点とし、小・中学生や一般男女の代表選手が10区間、全長約17.7キロのコースを襷を繋ぐ伝統行事で、堀金村時代から通算55回を数える。倉田地区が1区をトップで繋ぎ、中堀地区が2区から6区まで首位に立ち、7区から10区は倉田地区が逆転して逃げ切り激しい優勝争いを制し連覇を達成した。全区間で安定した走りの田多井地区が2年連続の準優勝で、躍進著しい小田多井地区は小・中学生が成長した姿を見せ3位入賞を飾った。田多井地区、小田多井地区は若い世代の台頭が目立ち、特に倉田地区は全国大会でトップレベルの落合華七斗さん(中3)と上条康太さん(高3)、勇貴さん(中3)、統也さん(中1)の3兄弟

は2年連続区間賞を獲得した。駅伝大会を通して、襷だけでなく地域の絆の繋がりを感ぜさせる大会であった。



明科

明科地域文化祭が11月2日から4日まで、明科公民館で開催された。この三連休は好天に恵まれ、玄関前に飾られた菊はいつもと変わらぬ芸術の秋を演出していた。

正面玄関からホールに入ると、美しく飾られたアメリカンフラワーが出迎えてくれた。絵画や書の掛け軸、地域の歴史・風土を映したDVDや展示も目を引いた。休憩ができる喫茶コーナーでは、にこやかにくつろぐ人々の姿が見られた。1、2階の各コーナーでは木彫・編み物・和裁や洋服・織物・書道・写真・押し花絵の他、明科地域の小・中・高校生の作品が展示され、興味深く見る多くの来場者の姿があった。



講堂では1日目、信州安曇野あすなろの会による太鼓を皮切りに「お楽しみサロン」が始まり、望月みどりさんによる軽妙なトークを交えた手品で幕を下ろした。

2日目は「芸能発表会」が開催された。明北・明南小学校の金管バンドによる力強い演奏に続き、

ダンスやコーラスなど各種団体による演目が披露された。淡々と舞踊を演じる姿に注目する人々、出演者の家族や友人などが大勢訪れ、華やかな一日であった。



3日目は静岡県浜松市を拠点に出張演奏活動を行っているアマチュアオーケストラ「オーケストラ・アンサンブル青い風」を招いての「晩秋ふれあいコンサート」が開催された。クラシックのスタンダードから歌謡曲、語りつきのアニメの演奏をはじめ、参加者自らタクトを振ってオーケストラが演奏する指揮者体験コーナーで盛り上がった。3日間を通して老いも若きも楽しめる文化祭となった。



文化祭開催中、「明科いいまちつくろうかい!!」では、不用品食器リサイクルの無料提供と併せて被災地への支援金を募ったところ、3万円近い善意が寄せられた。

三郷地域秋季講演会 明科廃寺調査成果と課題

11月17日に三郷郷土研究会と三郷公民館の共催で、秋季講演会を開催した。講師の大澤慶哲さんは、市文化財保護審議会委員で給然寺住職である。今まで進められてきた発掘調査の成果と課題について映像や資料を用い説明された内容は、興味深かった。

5月に実施された第5次調査で発掘された遺構は恐らく廃寺の中心伽藍の一部だったこと、出土した軒丸瓦から飛驒の寿楽寺廃寺・杉崎廃寺と同じ工人集団との関係がありそうなこと、美濃の弥勒寺廃寺と明科廃寺との地形的な共通点から七堂伽藍の本格的な寺院だった可能性が高いことなど、明科廃寺の全容に触れる話を聞くことができた。

参加者からは「明科と飛驒国のつながりがわかった」「地元の新しい歴史を知ることができた」

「明科の歴史が古く、時代を超えてきていると感心した」などの声が聞かれた。今後の発掘への期待感を高め、古代へのロマンを広げる講演会となった。



樺

★千葉県から移住して、安曇野の文化施設と活動が充実していると感ずる。美術館・博物館・公民館・ホールなどが立派だ。日ごろ開催される美術展・歴史講座・公民館活動・コンサートも良いが、特に今回の文化祭は素晴らしいであった。いい街だ。(Y・I)

★新年を迎えるにあたり、1年の目標を立てながら思うのが、未達の事業のなんと多いことか。しかし、世の中には時計の針を進めたくとも進められない人も多くいるのだ。今この一瞬を大切に、目標に向かって進みたい。(K・Y)

★昨年の台風19号の被害は甚大であり、改めて自然の恐ろしさを感じ知った。被災された方々の一刻も早い復興を望むところである。防災マップの重要性を再認識したが、常日頃より、自分の地域の状況を確認し心構えをしておくことが大事だと感じた。(H・N)

★暦は令和に代わり新しい春を迎える。人々の暮らしは、日々が同じ繰り返しでも新しい出来事に出会うものだ。地域文化祭が各地で開催され、日頃の活動成果が発表された。俳句や短歌の中に、思いを込めた言葉がある。文字を紡ぐ視線の様に、自分を見つめ周りを見渡し、みずみずしい心で世界を感じていたいものだ。(T・Y)

★恭賀新年、ネズミ年らしく小回りきかせて、今年も公民館報を通じて地域の魅力を発信していきます。(K・T)